

【第四章】

IV

ふるさと再生
持続可能なまちづくりへ





持続可能なまちづくりに向けて ふるさと浪江の再生が着実に進んでいます。

町の生活再建と移住・定住の推進、水素社会の実現など、多様な分野でチャレンジを続けている浪江町の今とこれからの姿をご紹介します。

JR常磐線 富岡駅－浪江駅間が復旧し 9年振りに全線開通

東日本大震災で被災し、一部不通となっていたJR常磐線では、2020（令和2）年3月14日、富岡駅－浪江駅間（20.8km）が9年振りに復旧し、全線開通を果たしました。JR常磐線は、東日本大震災の影響で、広野駅－浜吉田駅（宮城県）の大半が長期間不通となりましたが、この内、浪江駅－小高駅間は2017（平成29）年4月に、竜田駅－富岡駅間は2017（平成29）年10月に、それぞれ復旧しています。

JR常磐線の富岡駅－浪江駅間には、原発事故による帰還困難区域も含まれますが、双葉駅周辺は2020（令和2）年3月4日、大野駅（大熊町）周辺は3月5日、夜ノ森駅（富岡町）周辺は3月10日をもって避難指示が解除されたため、駅周辺への立ち入りが可能となりました。

全線再開通を迎えた14日、沿線には多くの鉄道ファンが朝から詰めかけ、乗客を歓迎する地域住民の姿も見られました。

帰還する住民の台所に 「イオン浪江店」オープン

2019（令和元）年7月14日、幾世橋地区に「イオン浪江店」が新規オープンしました。店舗のキャッチフレーズは「浪江町の皆さまと共に歩み、集い、新たな活力と笑顔があふれる町」。避難指示が一部解除されてから、まちなかにはコンビニはあったものの、生鮮食品などの入手は難しく、スーパーマーケットは帰還住民から要望の高かった施設の一つでした。

イオン浪江店の売り場面積は293坪、品揃えは約8,000品目。そのうち非食品は3,500品目、医薬品は500品目が並び（オープン当時の品目数）、朝6時から夜20時までの営業を行います。館内には注文用タブレットを設置し、寝具や収納用品、ベビー用品などを店舗や自宅で受け取ることができるお取り寄せシステムが整備され、町民の暮らしをサポートしています。また、店内で調理した刺身やにぎり寿司、惣菜などを販売するほか、イートインスペースも設けられています。



地域振興の新しい拠点 「道の駅なみえ」グランドオープン

2020（令和2）年8月1日、町復興のシンボルとして「道の駅なみえ」がプレオープンし、県内外から約4,000人が訪れました。この施設は、地域住民同士をつなぐ交流施設としての機能をはじめ、町民の日常生活を支える商業施設、また、観光客を迎え入れる玄関口として町の魅力を伝える情報発信機能を備える大型複合施設となっています。

「道の駅なみえ」では、太陽光のほか、町内で稼働中の世界最大の水素製造拠点「福島水素エネルギー研究フィールド（FH2R）」で製造された水素を用いて発電を行い、照明や空調などの一部に活用。町が取り組む「浪江町復興スマートコミュニティ構築事業」の拠点の一つとしての役割も担っています。2021（令和3）年3月にはグランドオープンを迎え、酒蔵や大堀相馬焼の窯場を擁する地場産品販売施設が開所。本館には無印良品のコーナーもオープンし、地域振興にますます期待が寄せられています。



浜通りの経済復興を目指し 浪江インターチェンジ開通

当初、常磐自動車道 浪江ICは2011（平成23）年の開通を目指して建設が進められていましたが、東日本大震災および原発事故の影響で帰還困難区域（事故発生当時は警戒区域）となったため、建設は中断されました。その後、環境省による除染モデル事業が終了したことで工事を再開。浪江IC－南相馬ICは2014（平成26）年12月6日に、常磐富岡IC－浪江IC間は2015（平成27）年3月1日にそれぞれ開通し、常磐自動車道は全線開通を果たしました。これにより、首都圏から福島・宮城エリアにかけての観光交流人口の増加、配送ルート拡大による物流効率化、常磐道と東北道のダブルネットワークによる移動時間短縮化など、様々な効果が期待されています。現在は4車線化、付加車線の設置が順次進められており、浜通りの経済復興を大いに牽引していきます。







空から見た ふるさとの現在



2020年6月9日撮影

未来へ生まれ変わりつつある浪江町



次々と誕生する施設



浪江町まちづくりイメージ鳥瞰図
2017 (平成 29) 年 3 月 浪江町復興計画【第二次】より





まち・なみ・まるしえ

浪江町役場の敷地南側に2016（平成28）年10月27日にオープンした仮設商業共同店舗施設。飲食店や町の特産品が揃う店舗など10店が営業し、第2土曜・日曜はイベントも開催されました。この施設は2021（令和3）年3月をもって4年半の当初の役割を終え、今後はチャレンジショップとして再び町の復興を支えています。

浪江診療所

2017（平成29）年3月31日の「避難指示解除準備区域」「居住制限区域」の避難指示解除に先行する形で、3月28日より「浪江診療所」が診察を開始しました。診療所は町役場本庁舎の敷地内にあり、町民の誰もが利用しやすく、町の医療・介護の復旧に大きく貢献しています。



請戸漁港

2019（令和元）年10月、請戸漁港では津波で被害を受けた荷捌き施設が新たに完成。翌年4月8日には、9年振りに「競り」が再開されました。今後、試験操業から本格操業への移行を予定しており、請戸港で水揚げされた新鮮な魚介類が、首都圏をはじめ全国へ流通することが期待されています。



福島いこいの村なみえ

町民がいつでも町に帰ってこられるよう、「くつろぎと安心」「集いの場」を提供する宿泊機能を備えた施設。一時帰還する町民の宿泊施設や交流スペースとしての利用のほかに、観光や復興情報の拠点となることを目指して、2018（平成30）年6月20日にオープンし、2021（令和3）年には管理棟を整備しました。



浪江消防署

町消防署は庁舎が復旧するまでの間、「サンシャイン浪江」へ一時移転していましたが、新庁舎完成に伴い、2018（平成30）年4月1日より運用を開始。新しい消防署は、消防車や救急車を併設した3階建ての建物で、町を24時間体制で見守っています。



浪江町地域スポーツセンター

JR浪江駅西側にある「浪江町地域スポーツセンター」は、メインアリーナ、サブアリーナ（成人式や芸能祭などを行うことができるステージ）のほか、トレーニングルーム、会議室を完備しています。館内には最新の設備が整い、町民の健康づくりを支えています。

福島ロボットテストフィールド（浪江滑走路）

無人航空機用滑走路として、棚塩産業団地に整備された、長さ400m、幅20m、アスファルト舗装の「浪江滑走路」。離陸後すぐに海上に出られるほか、滑走路と直結する格納庫、一帯を見渡せる計測室やアンテナ設置台を備えています。



福島水素エネルギー研究フィールド（FH2R）

棚塩産業団地内にある世界最大級の水素製造拠点。毎時1,200Nm³（定格運転時）の水素を製造する能力があります。電力系統の需給バランスを調整することで、出力変動の大きい再生可能エネルギーを効率よく利用しながら、クリーンで低コストな水素製造技術の確立を目指します。

